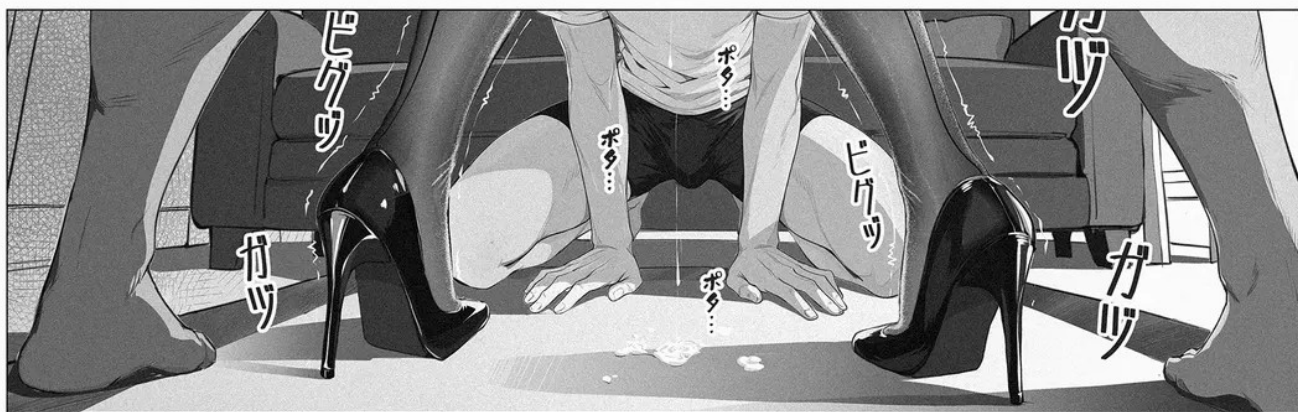




「俺...ほんと、最低だな...」

Illustrated by daikanki



「頭等席」

妻の演目を最前列で観てる俺.....ほんと、最低だ。



さあ…目の前に旦那もいるし、
ショータイムだ。

おやおや…
まだ挿れてもないのに、
もうトロトロじゃねえか。

んっ!

あぁっ!

そこ…
っ、あぁっ!

ほら、見ろよ。
ちゃんと受け止める。
カカカカカ、
お前の嫁さん、今じゃ犬みたいに
引っ張られて、腰まで振ってるぜ。
それでも見れるか?

…や…やめて…
何も…言わないで…

うっ



「 頭等席 」

PART.2

妻の演目を最前列で観てる俺...ほんと、最低だ。

【映画視点 | Pixivで無料公開中】

おや？旦那様、
なんで顔を背けたの？
こんな定番の顔、
見逃してもいいの？

君は頭等席に座ってるんだよ？
あれだけ高いチケット代、
払ったんだから、
ちゃんと見なきゃ損だろ？



あ、あな…
た…
そ…
そんな目で見ないで、
あっ…お願い…
だから…



ほらほら!!
もっと声出せよ、
このビッチが!!
旦那ナに聞かせてやれよ、
他の男にやられてるテメエの
だらしねえ声をよ!!



見ろよ…腰が、
勝手に踊ってるぜ。
誰も指示してねえのにな？



いい子だ、
跳ねる跳ねる、
もうすっかり
主役じゃねえか。



おまえさ、
もう完全に
見入っちゃまっ
てるじゃん。

ほんと救えねえな、
もつと近くで
見せてやるよ。

あつ!!
や、やだ……
ちよ、ちよつと……
何を!?

や……!!
やだ……
あなた……!!

ほら、
持ち主のもとへ
返してやるよ
——
ダンナさんにね。

ただ本能で、
彼女を……
壊れないように、
丸ごと抱きとめたかった。

気づいた時には、
両手を伸ばしていた。

その瞬間、
頭が真っ白になった。



我に返った時、
世界はまだあの瞬間に止まっていた。
俺のいちばん大事な人が、
使い古された玩具みたいに、
無造作に投げつけられた。

それでも…こんな状況でも。
俺の目は、本能のままに、
あの揺れ続ける胸に
縛りつけられていた。
あいつに突かれて、
めちゃくちゃに跳ねていた
—あの胸。

その手は、
まっすぐ俺に伸びてきた。
あの時、
彼女は「助け」
を求めてたんじゃないか、
そんな気がした。
なのに俺は、
腕を広げながら、
心のどこかで、
「次の幕」を待っていた。

【映画視点 | Pixivで無料公開中】

君は、どっちだ？

Fanboxへようこそ——君も、共犯になってくれ。

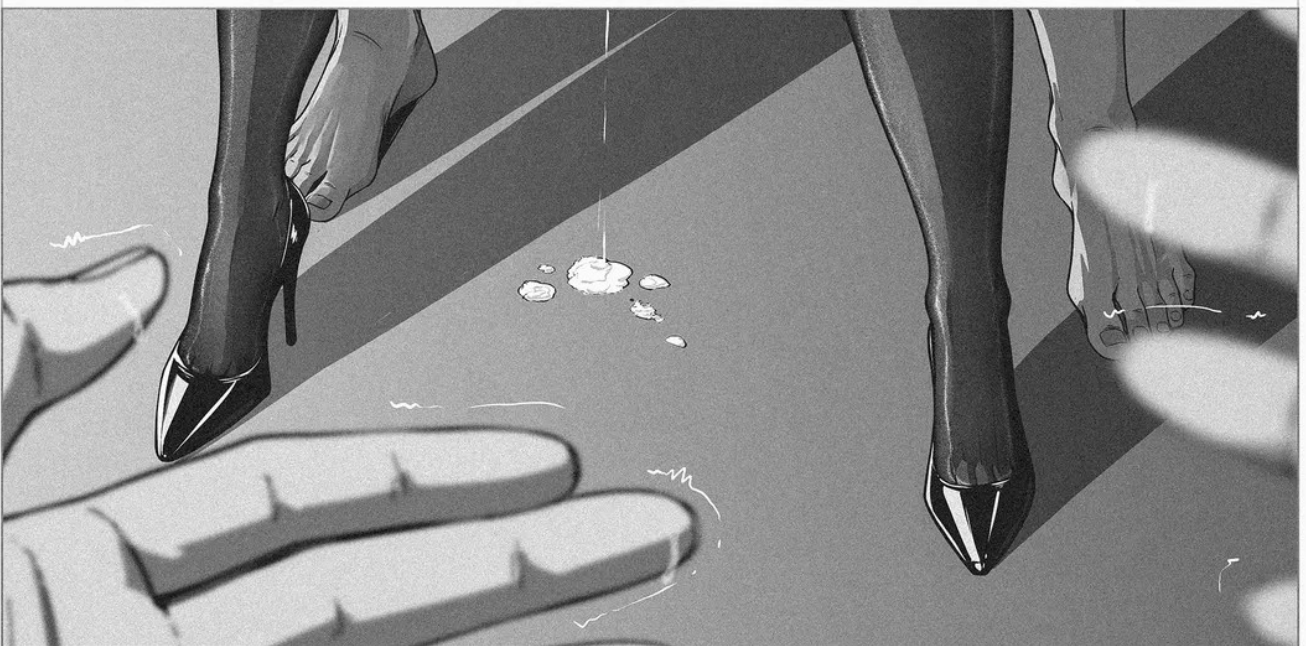
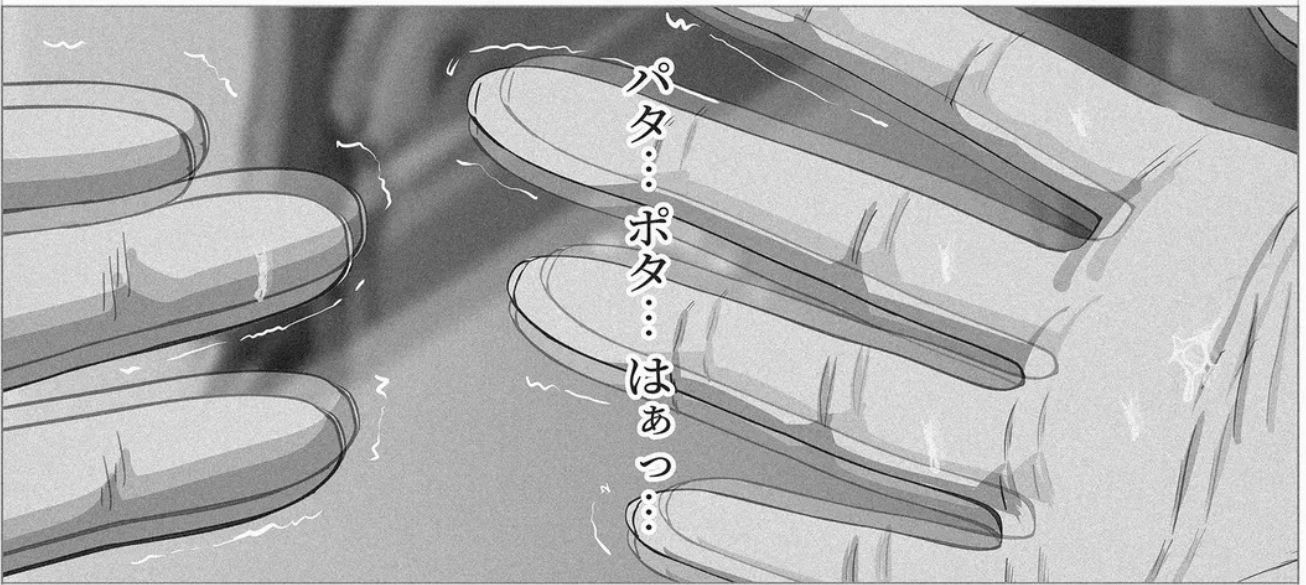
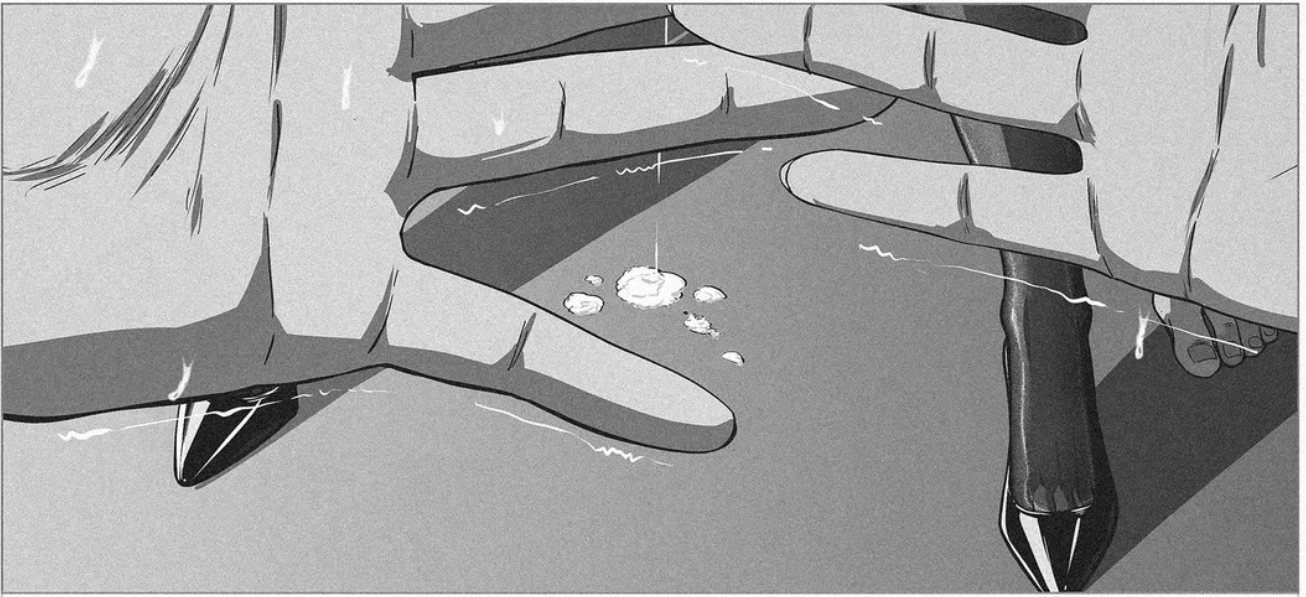
PAGE.6

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc

Illustrated by daikanki



「俺... ほんと、最低だな...」



「 頭等席 」

妻の演目を最前列で観てる俺.....ほんと、最低だ。



一体何を
しているんだ…

俺は…

ギョウ

ギョウ



さあ：
目の前に旦那もいるし、
ショータイムだ。

おやおや：
まだ挿れてもいないのに、
もうトロトロじゃねえか。



ほら、見ろよ。
ちゃんと受け止める。

そっ…
っ、あぁっ!

んっ!
あぁっ!

まだ挿れたばかりなのに…
こんなに吸いついて…
旦那には無理だろ?

カカカ…
お前の嫁さん、今じゃ犬みたいに
引っ張られて…腰まで振ってるぜ。
それでも見れるか?

まさか…旦那の前で突かれるの、
そんなに気持ちいいのか?

チユツ

チユツ



…や…やめて…
何も…言わないで…

ちゃんと俺のペースに
しっかり合わせてるな。
動くたびにギュッと縮まるだろ？
やっぱり大きければ気持ちいいんだろ？

奥さん…その反応、
もしかして調教される
素質あるんじゃないの？



笑えるよな。

自分で呼んだ男に、
自分の女を抱かせて…
でも、目の前の奥さんの顔が…
向き合う勇気もなくて、
ただ横を向くしかなかった。

……あれ、本当に苦しんでる顔か？
なんか、少し…笑ってるようにも見えた。
いや、それって…俺の幻覚か？
こんな現実、あるわけないよな……

君は「頭等席」に座ってるんだよ？
あれだけ「高いチケット代」
払ったんだから、
ちゃんと見なきゃ損だろ？

おや？旦那様、
なんで顔を背けたの？
こんな「定番の顔」
見逃してもいいの？

ほらほら!!もっと声出せよ、
このビッチが!!
ダンナに聞かせてやれよ、
他の男にやられてるテメエの
だらしねえ声をよ!!

いちばんエロい顔……
ダンナに
ちゃんと見せてやれよ。

誰が止まってるって
言った!!?
もっと腰振れよ、
しっかりな!!

そ……
そんな目で見ないで、
あつ……お願い……
だから……

あ、あな……
た……

「頭等席」 PART.2

妻の演目を最前列で観てる俺…ほんと、最低だ。

【旦那視点 | Fanbox限定版】 PAGE.5

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



【旦那視点 | Fanbox限定版】

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。
物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。

ほら、
持ち主のもとへ
返してやるよ—
ダンナさんにね。

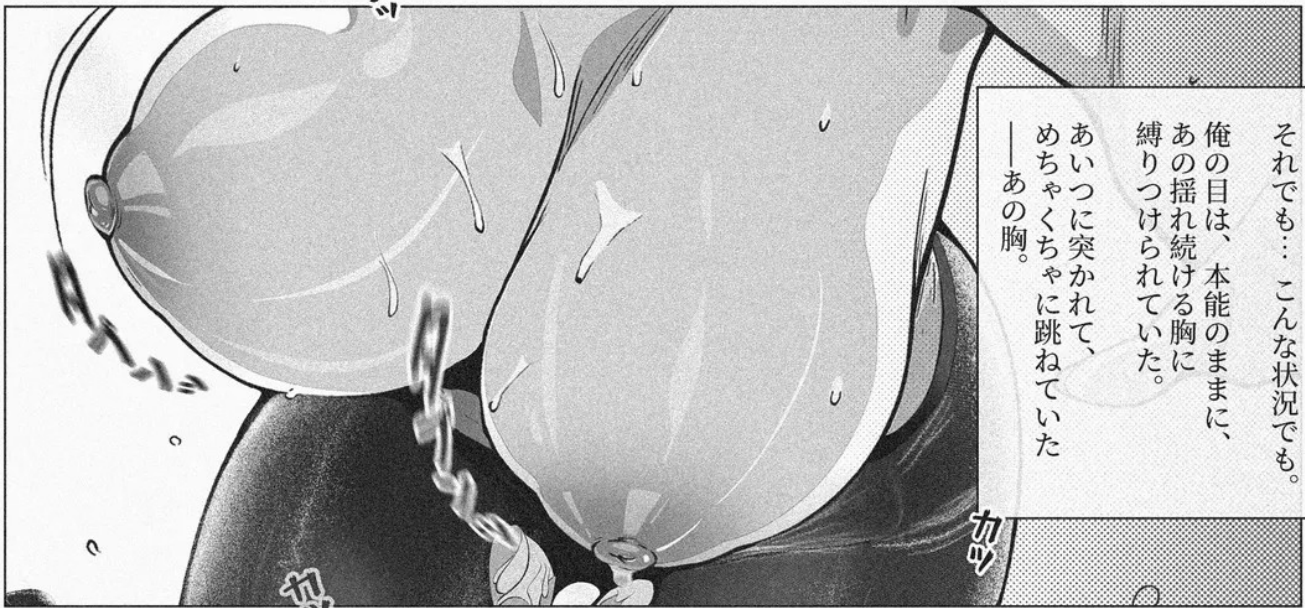
や…っ!!
やだ…
あなた…っ!!

その瞬間、
頭が真っ白になった。
気づいた時には、
両手を伸ばしていた。

ただ本能で、
彼女を……
壊れないように、
丸ごと抱きとめたかった。



我に返った時、
世界はまだあの瞬間に止まっていた。
俺のいちばん大事な人が、
使い古された玩具みたいに、
無造作に投げつけられた。



それでも…こんな状況でも。
俺の目は、本能のままに、
あの揺れ続ける胸に
縛りつけられていた。
あいつに突かれて、
めちゃくちゃに跳ねていた
—あの胸。



その手は、
まっすぐ俺に伸びてきた。
あの時、
彼女は「助け」
を求めてたんじゃないか、
そんな気がした。
なのに俺は、
腕を広げながら、
心のどこかで、
「次の幕」を待っていた。

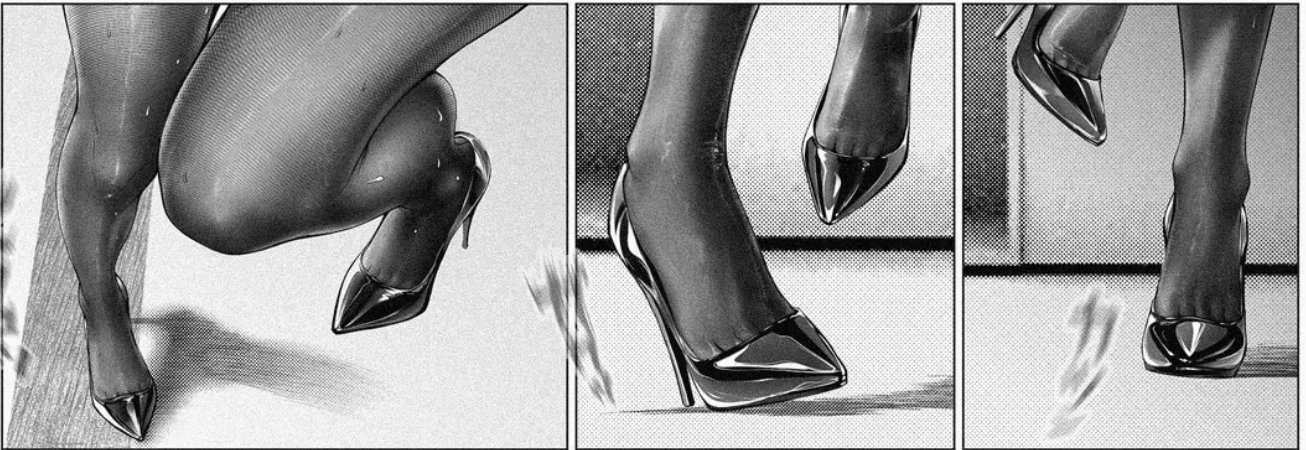
【旦那視点 | Fanbox限定版】

君は、どっちだ？

Fanboxへようこそ——君も、共犯になってくれ。

PAGE.8

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



あなた…ごめん
手…離されて…
立てなくて…

「 頭等席 」 PART.3

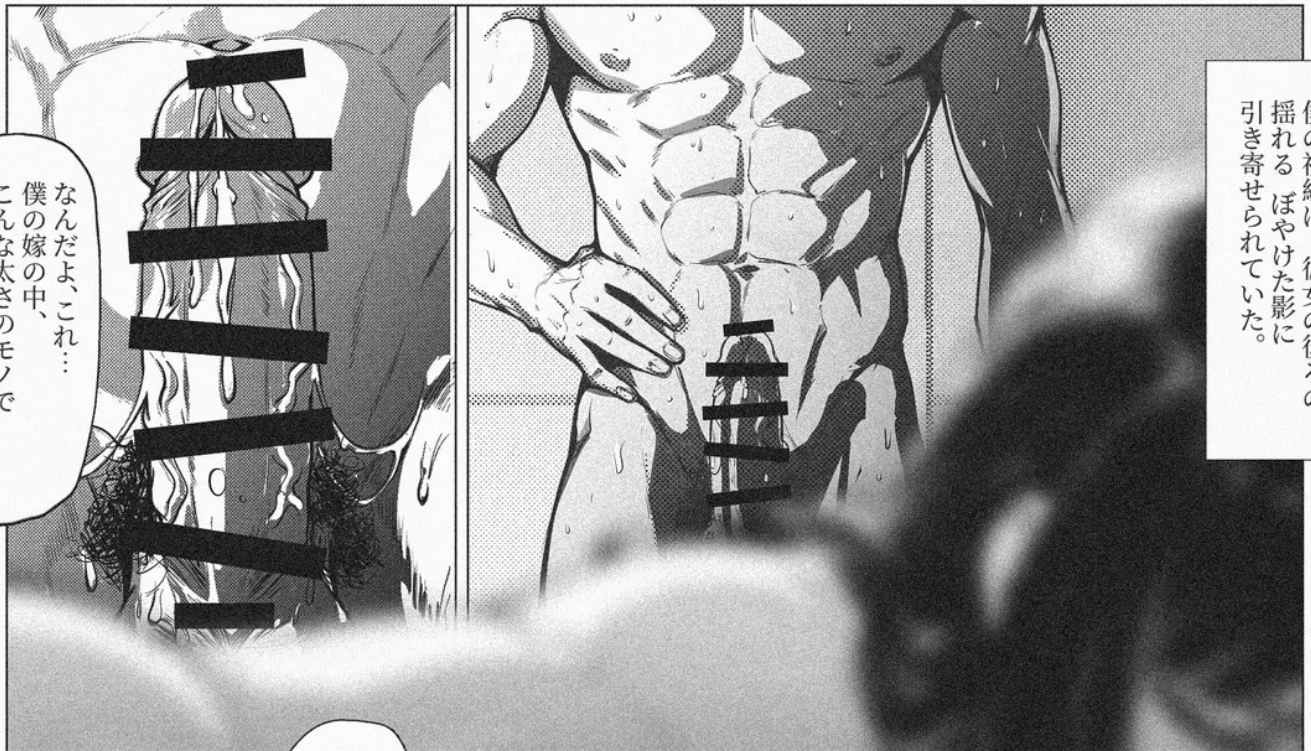
妻の演目を最前列で観てる俺…ほんと、最低だ。

【旦那視点 | Fanbox限定版】 PAGE.9

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



彼女の体温、彼女の震え、
そして、あの柔らかい感触が、
少しずつ胸の奥に染み込んでくる。



なんだよ、これ…
僕の嫁の中、
こんな太さのモノで
ずっと貫かれてたなんて…

僕の視線は、彼女の後ろの、
揺れるほやけた影に
引き寄せられていた。



まったく、お前も…
もっと近くで
見せたがってんだろ？

【旦那視点 | Fanbox限定版】

PAGE.10

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。
物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



今の私の姿…
あなたが望んでたの……？

私、こんなに
軽い女
みたいでしょ……？

彼女は、咲きすぎた花のようだった。
花びらは、すでに他人に弄られて、
くしゃくしゃになっているのに、
それでも……甘くねっとりとした香りを放っていた。
まるで、さっき誰かに持ち上げられたばかりのように――
美しかった。



そんなことない。

さっきの君……
本当に……美しかった。

ありがとう、
あなた。



僕…



僕…

君があんな姿に…
なりたくないんだ…

でも、

さっきの君が…
あまりに…

もし、君が…

まだ耐えられるなら、

もう少し…
見せてくれないかな…？



…ん



【旦那視点 | Fanbox限定版】

なあ、聞こえたか？ 彼女の「ん」

お前の心臓、止まったろ？ Fanboxへようこそ、一緒に見よう。

PAGE.12

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



はいはい、
幕間は終了だ。
お熱い夫婦ごっこは
そこまでだ。



えっ!?

嘘...また...?
待って、私...
まだ準備がっ!

「 頭等席 」 PART.4

妻の演目を最前列で観てる俺...ほんと、最低だ。



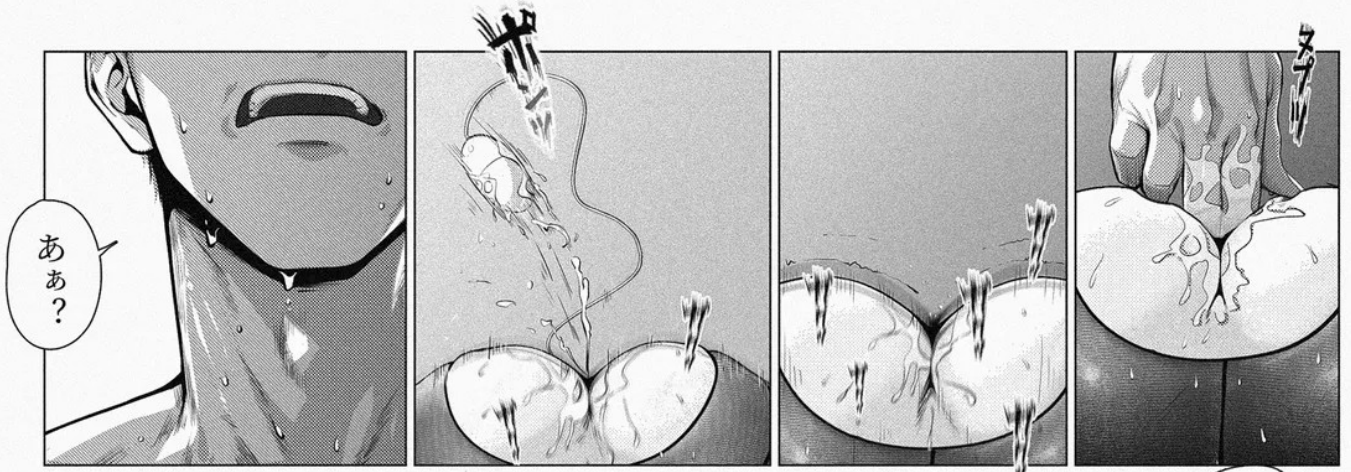
奥さん、
この子たち…
可愛いだろ

たっぷり
可愛がってやれよ。

へえ……
中はイイ状態だぜ。

【旦那視点 | Fanbox限定版】

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。
物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。







【旦那視点 | Fanbox限定版】

PAGE.17

次の幕が上がるぞ。ここからが、本番だ。

Illustrated by daikanki

「特等席」に座るお前も、準備はいいな？

daikanki.fanbox.cc



「俺...ほんと、最低だな...」

Illustrated by daikanki



「頭等席」

妻の演目を最前列で観てる俺……ほんと、最低だ。



さあ…目の前に旦那もいるし、
ショータイムだ。

おやおや…
まだ挿れてもないのに、
もうトロトロじゃねえか。

んっ!

あぁっ!

そこ…
っ、あぁっ!

ほら、見ろよ。
ちゃんと受け止める。
カカカカカ、
お前の嫁さん、今じゃ犬みたいに
引っ張られて、腰まで振ってるぜ。
それでも見れるか?

…や…やめて…
何も…言わないで…

うっ



「 頭等席 」

PART.2

妻の演目を最前列で観てる俺...ほんと、最低だ。

【映画視点 | Pixivで無料公開中】

おや？旦那様、
なんで顔を背けたの？
こんな定番の顔、
見逃してもいいの？

君は頭等席に座ってるんだよ？
あれだけ高いチケット代、
払ったんだから、
ちゃんと見なきゃ損だろ？

あ、あな…
た…
そ…
そんな目で見ないで、
あっ…お願い…
だから…

ほらほら!!
もっと声出せよ、
このビッチが!!

旦那ナに聞かせてやれよ、
他の男にやられてるテメエの
だらしねえ声をよ!!

見ろよ…腰が、
勝手に踊ってるぜ。
誰も指示してねえのにな？

いい子だ、
跳ねる跳ねる、
もうすっかり
主役じゃねえか。

【映画視点 | Pixivで無料公開中】

PAGE.4

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。
物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc

おまえさ、
もう完全に
見入っちゃまっ
てるじゃん。

ほんと救えねえな、
もっと近くで
見せてやるよ。

あっ!!
や、やだ……
ちよ、ちよっと……
何を!?

ほら、
持ち主のもとへ
返してやるよ
——
ダンナさんにね。

や……!!
やだ……
あなた……!!

ただ本能で、
彼女を……
壊れないように、
丸ごと抱きとめたかった。

気づいた時には、
両手を伸ばしていた。

その瞬間、
頭が真っ白になった。



我に返った時、
世界はまだあの瞬間に止まっていた。
俺のいちばん大事な人が、
使い古された玩具みたいに、
無造作に投げつけられた。

それでも…こんな状況でも。
俺の目は、本能のままに、
あの揺れ続ける胸に
縛りつけられていた。
あいつに突かれて、
めちゃくちゃに跳ねていた
—あの胸。

その手は、
まっすぐ俺に伸びてきた。
あの時、
彼女は「助け」
を求めてたんじゃないか、
そんな気がした。
なのに俺は、
腕を広げながら、
心のどこかで、
「次の幕」を待っていた。

【映画視点 | Pixivで無料公開中】

君は、どっちだ？

Fanboxへようこそ——君も、共犯になってくれ。

PAGE.6

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc

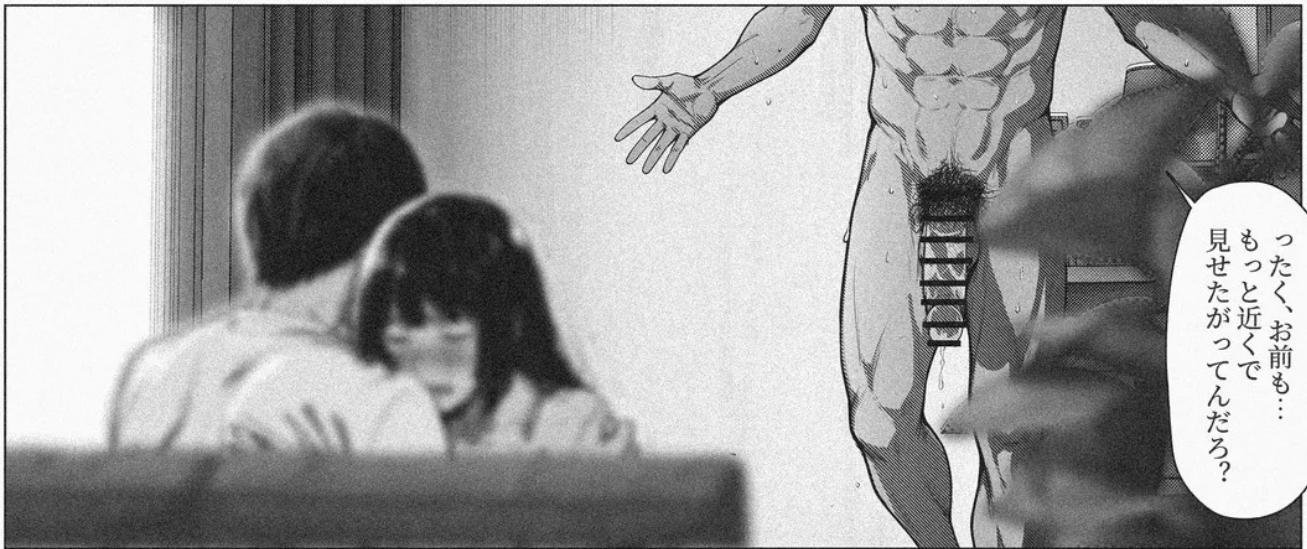


「頭等席」 PART.3

妻の演目を最前列で観てる俺...ほんと、最低だ。

【映画視点 | Pixivで無料公開中】 PAGE.7

Illustrated by daikanki
 daikanki.fanbox.cc



【映画視点 | Pixivで無料公開中】



今の私の姿…
あなたが望んでたの……？

私、こんなに
軽い女
みたいでしょ……？



さっきの君……
本当に……
美しかった。

そんなことない。



僕……
僕……

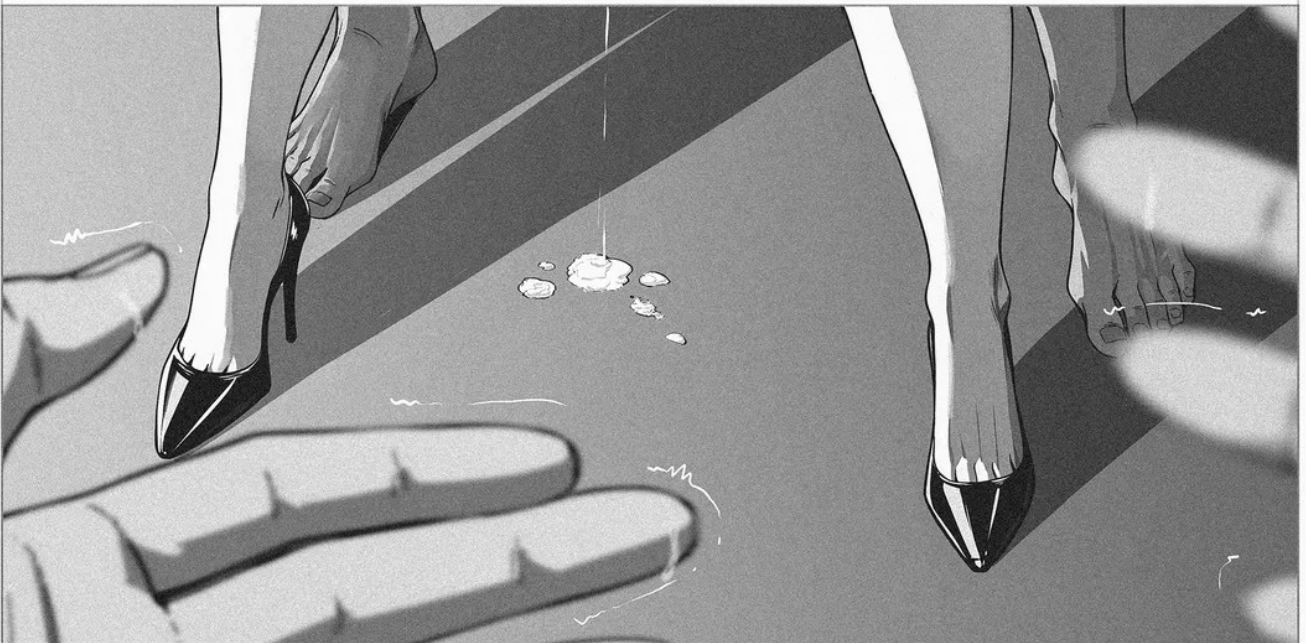
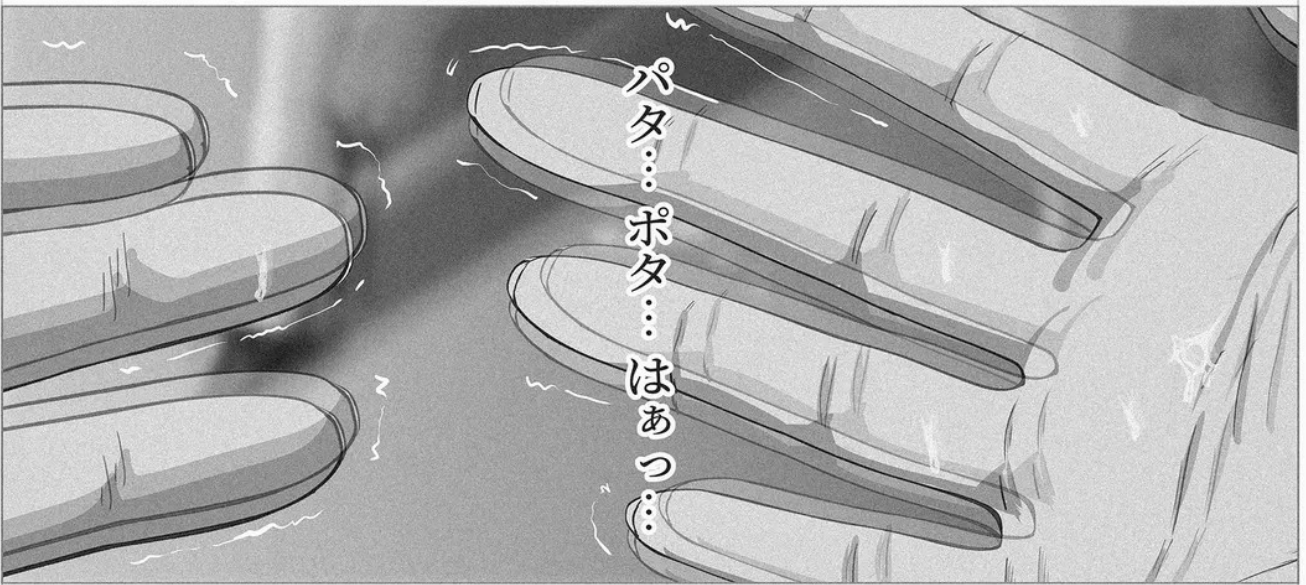
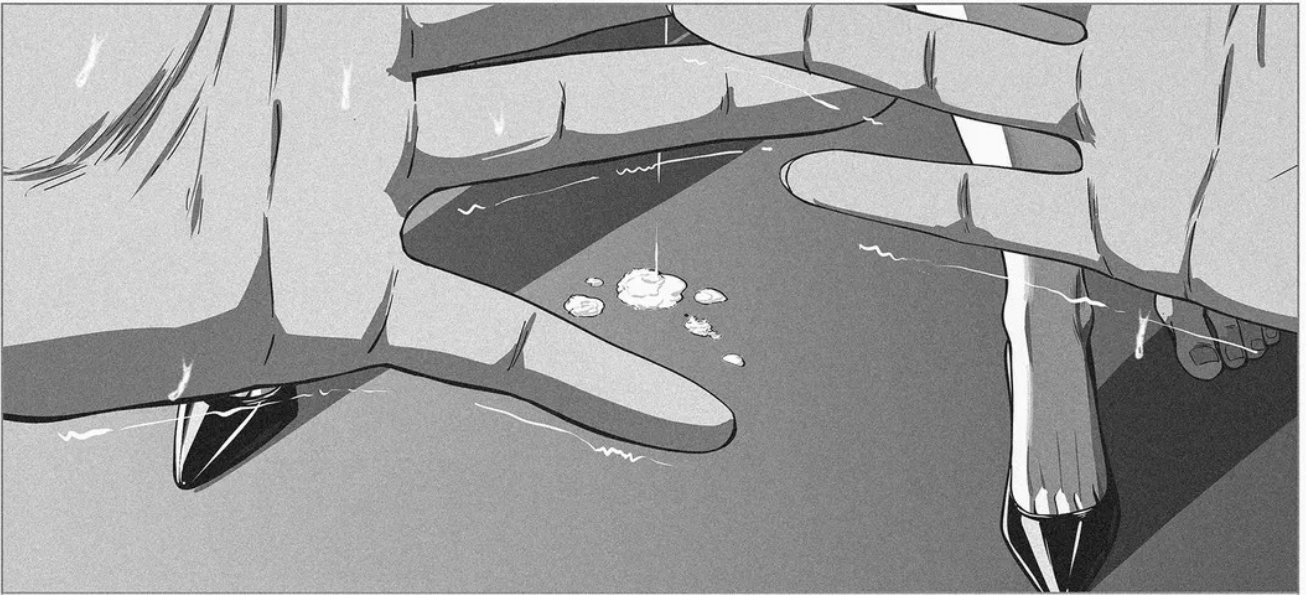


ありがとう、
あなた。





「俺...ほんと、最低だな...」



「 頭等席 」

妻の演目を最前列で観てる俺……ほんと、最低だ。





さあ：
目の前に旦那もいるし、
ショータイムだ。

おやおや：
まだ挿れてもいないのに、
もうトロトロじゃねえか。



ほら、見ろよ。
ちゃんと受け止める。

そっ…
っ、あぁっ！

んっ！
あぁっ！

まだ挿れたばかりなのに…
こんなに吸いついて…
旦那には無理だろ？

カカカ…
お前の嫁さん、今じゃ犬みたいに
引っ張られて…腰まで振ってるぜ。
それでも見れるか？

まさか…旦那の前で突かれるの、
そんなに気持ちいいのか？



…や…やめて…
何も…言わないで…

ちゃんと俺のペースに
しっかり合わせてるな。
動くたびにギュッと締まるだろ？
やっぱり大きければ気持ちいいんだろ？

奥さん…その反応、
もしかして調教される
素質あるんじゃないの？

パチニョッ

パチニョッ

パチニョッ

パチニョッ

笑えるよな。

自分で呼んだ男に、
自分の女を抱かせて…
でも、目の前の奥さんの顔が…
向き合う勇氣もなくて、
ただ横を向くしかなかった。

…あれ、本当に苦しんでる顔か？
なんか、少し…笑ってるようにも見えた。
いや、それって…俺の幻覚か？
こんな現実、あるわけないよな…

君は「頭等席」に座ってるんだよ？
あれだけ「高いチケット代」
払ったんだから、
ちゃんと見なきゃ損だろ？

おや？旦那様、
なんで顔を背けたの？
こんな「定番の顔」
見逃してもいいの？

ほらほら!!もつと声出せよ、
このビッチが!!
ダンナに聞かせてやれよ、
他の男にやられてるテメエの
だらしねえ声をよ!!



誰が止まってるって
言った!!
もっと腰振れよ、
しっかりな!!

そ...
そんな目で見ないで、
あつ...お願い...
だから...

あ、あな...
た...

「頭等席」 PART.2

妻の演目を最前列で観てる俺...ほんと、最低だ。



んあっ
あっあっ

いい子だ、
跳ねろ跳ねろ、
もうすつかり
主役じゃねえか。

見ろよ：腰が、
勝手に踊ってるぜ。
誰も指示してねえのにな？



おまえさ、
もう完全に
見入っちゃまってるじゃん。

ほんと救えねえな、
もつと近くで
見せてやるよ。

あっ!!
や、やだ……
ちよ、ちよっと……
何を!?

ギョッ

【旦那視点 | Fanbox限定版】

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。
物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。



ほら、
持ち主のもとへ
返してやるよ—
ダンナさんにね。

や…っ!!
やだ…
あなた…っ!!

その瞬間、
頭が真っ白になった。
気づいた時には、
両手を伸ばしていた。

ただ本能で、
彼女を……
壊れないように、
丸ごと抱きとめたかった。



我に返った時、
世界はまだあの瞬間に止まっていた。
俺のいちばん大事な人が、
使い古された玩具みたいに、
無造作に投げつけられた。



それでも…こんな状況でも。
俺の目は、本能のままに、
あの揺れ続ける胸に
縛りつけられていた。
あいつに突かれて、
めちゃくちゃに跳ねていた
—あの胸。



その手は、
まっすぐ俺に伸びてきた。
あの時、
彼女は助け、
を求めてたんじゃないか、
そんな気がした。
なのに俺は、
腕を広げながら、
心のどこかで、
次の幕を待っていた。

【旦那視点 | Fanbox限定版】

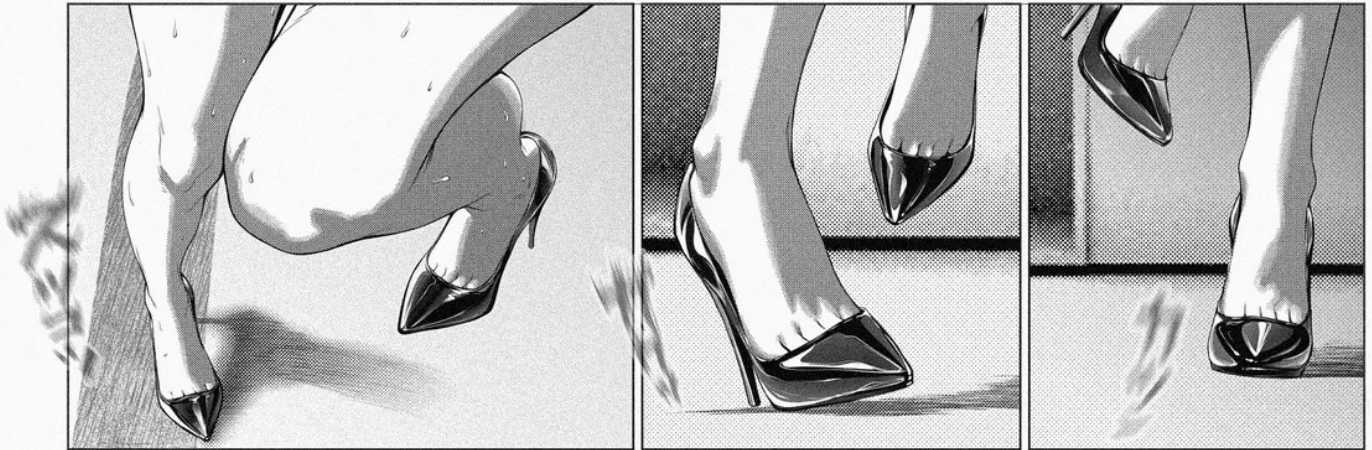
PAGE.8

君は、どっちだ？

Illustrated by daikanki

Fanboxへようこそ——君も、共犯になってくれ。

daikanki.fanbox.cc



「 頭等席 」 PART.3

妻の演目を最前列で観てる俺...ほんと、最低だ。

【旦那視点 | Fanbox限定版】 PAGE.9

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



彼女の体温、彼女の震え、
そして、あの柔らかい感触が、
少しずつ胸の奥に染み込んでくる。



なんだよ、これ…
僕の嫁の中、
こんな太さのモノで
ずっと貫かれてたなんて…

僕の視線は、彼女の後ろの、
揺れるほやけた影に
引き寄せられていた。



まったく、お前も…
もっと近くで
見せたがってんだろ？

【旦那視点 | Fanbox限定版】

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。
物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。



今の私の姿…
あなたが望んでたの……？

私、こんなに
軽い女
みたいでしょ……？

彼女は、咲きすぎた花のようだった。
花びらは、すでに他人に弄られて、
くしゃくしゃになっているのに、
それでも……甘くねっとりとした香りを放っていた。
まるで、さっき誰かに持ち上げられたばかりのように――
美しかった。



そんなことない。

さっきの君……
本当に……美しかった。

ありがとう、
あなた。



僕…



僕…

君があんな姿に…
なりたくないんだ…

でも、

さっきの君が…
あまりに…

もし、君が…

まだ耐えられるなら、

もう少し…
見せてくれないかな…？



…ん



【旦那視点 | Fanbox限定版】

なあ、聞こえたか？ 彼女の「ん」

お前の心臓、止まったろ？ Fanboxへようこそ、一緒に見よう。

PAGE.12

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



はいはい、
幕間は終了だ。
お熱い夫婦ごっこは
そこまでだ。



えっ!?



嘘...また...?
待って、私...
まだ準備がっ!

「 頭等席 」 PART.4

妻の演目を最前列で観てる俺...ほんと、最低だ。



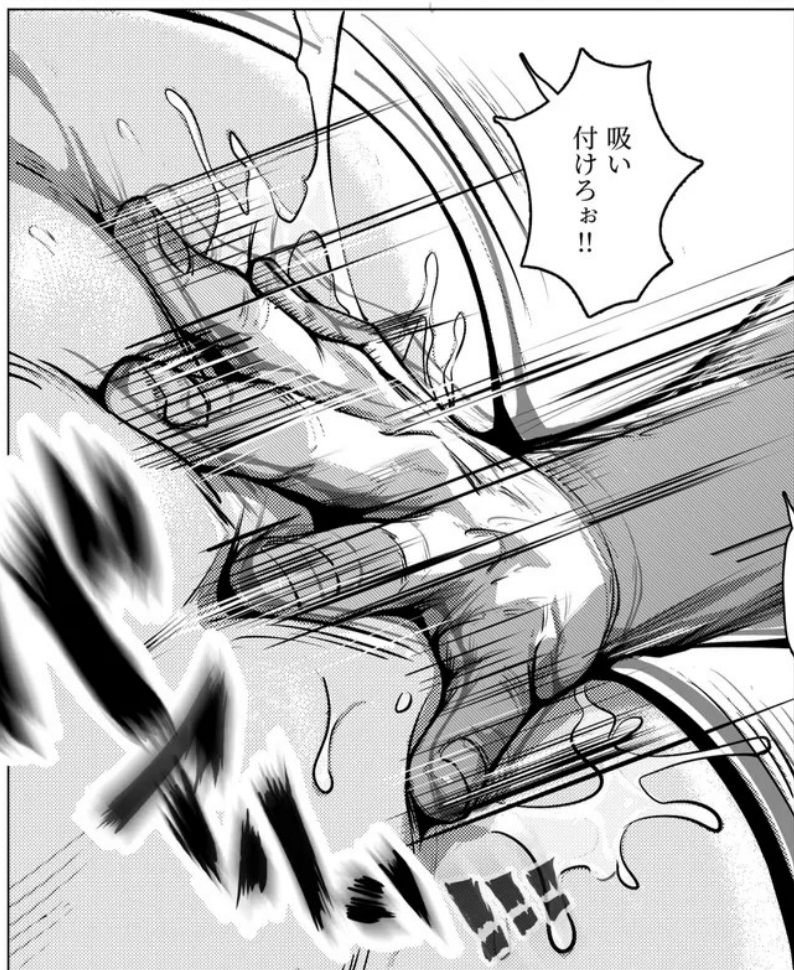
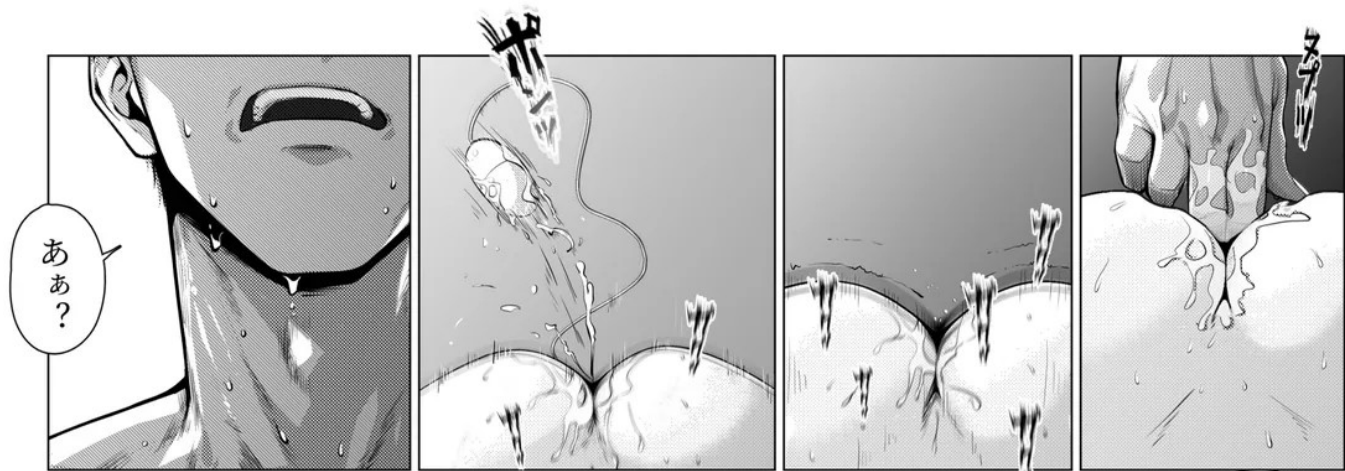
奥さん、
この子たち…
可愛いだろ

たっぷり
可愛がってやれよ。

へえ……
中はイイ状態だぜ。

【旦那視点 | Fanbox限定版】

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。
物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。







さて、
最後は俺の…
この一本だ。

旦那様、
準備はいいか？
次の幕が
上がるぞ。

【旦那視点 | Fanbox限定版】

次の幕が上がるぞ。ここからが、本番だ。

「特等席」に座るお前も、準備はいいな？

PAGE.17

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc

「頭等席」 PART.5

妻の演目を最前列で観てる俺...ほんと、最低だ。

ああ...たまらん...
この温度...
物を詰め込んだ後の
この吸い付くような
締め付け...
まさに「極上」だ。

かき
とは言え
さすがに二回戦ともなると
どうやらこの穴は俺を
迎え入れてる
みたいだな。

あ、ああ...!!
お腹の中...こんなの...
暴れてるう...
ああ!

ハハハハ!! 最高だ!
ローターが震えるたびに
中の肉壁が無茶苦茶に
絡みついてくる!!

ローターの
絶え間ない震えと
肉壁の不規則な締め付け……
この二重奏……

こんなの、男なら
耐えられるわけがない。
腰が止まる
わけないだろ!!

これほど極上の
「素材」なのに
お前は正しい「使い方」も
知らないとはな……
全一く、勿体ない話だ。

ほら、見えるか?
この腹の「盛り上がり」……
お前じゃ作れないだろ?

なんだ、お前……
意外とデカい「モノ」
持つてるじゃねえか。

使い方が
分からないんじゃない
なくて……
使うのを「惜しんでた」
ってわけか。
ハハハハハ!

あいつに無慈悲に
嘲笑われた俺は……
こんな姿に
された妻を見て
情けなくも……
パンツの中に
手を伸ばしていた。

そ、その……

気分は……
ど、どう……
なんだ……?

ま、ま……
ま……つ



……ってことは、「遠慮なくていい」ってことだよな？



「まあまあ……？」



感じすぎて
身体の自由が
きかないんだろ！

フン、
強情な女め。
子宮が裏返るまで
突いてやる。
大人しく
犯されてろ！！



無様な
ダンスだな！

胸も尻も
だらしなく
波打ってるぞ！

俺だ……
あいつを呼んだのは……
俺だ……
俺がこの手で
妻を差し出したんだ……

なのに……
違う………こんなの
やめろ………ッ！！
そこで止まれ………ッ！！
そう叫びたいのに……
口が………開かない……
止めなきゃ
いけないのに……
手だけが歓喜
してやがる

なんでずっと
下向いてんだ？
さっきまでの強がりは
どうした？

腰が抜けたか？
それとも……
旦那には見せられない
顔でもしてるのか？

顔を上げろオ!!

傑作だな……

気持ちいいのか
どうかは……
その「縮まりのない顔」で……
旦那にたっぷりと
語ってやれ。

ちが……う
え……へ……ッ、ヒグッ……
イヤ……なのに……ッ

なん……か……
す、少し……だけ……
気持ち……いい……
かも……

ハハッ!
どうやら旦那様も
我慢できなくな
ったみたいだ。

自分のモノ
弄り始め
ちゃってるぜ？

【旦那視点 | Fanbox限定版】

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。
物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。

ッ!?
急に……
さっきより
締めやがった!

旦那の
オナニー見て……
そんなに濡れ
ちまったかよ!

豊満に
揺れる胸が……
近づいてくる……
視界を……
埋め尽くして……

ねえ……あなた……
息……凄く荒いよ……?
今……気持ちいいの……?

分かるよ……
私だって……
気持ちよく
なっちゃったもん……

こんな酷いこと
されてるのに……
あなたのおんな顔見たら……
私も……気持ち良くなっちゃった……

やっぱり……
私……も……
変態なのかも……

チ……ッ!!
ぐ……う……!!

んぐ……ッ!!
うう……
うう……!!

息も
できない
ほどの、
甘美な……
肉の闇。
羞恥も、
倫理も、
妻の熱で
ドロドロに
溶かされ……
俺という
人間が
消えていく……
残るのは……
下半身を
突き上げる、
浅ましい
雄の
本能だけ。